

江戸川区の疎開児童の宿舎 湯野浜温泉

昭和19年8月から3~6年生1715名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。
○湯野浜温泉 大屋、湯野浜ホテル、ゑびすや、大黒屋、扇屋、岩見屋
岩崎屋、都屋、富屋、岩本屋、亀屋、宮島屋、富士屋、小柳館、厚生館
竜ノ湯、一久、伊砂屋、福住、鶴屋、竹屋、双葉の22旅館
「学童疎開 謝恩の記念碑の銘文」「江戸川区の学童疎開」

昭和19年12月末にはさらに児童数が増えています。

昭和20年、6年生が卒業のために帰京し、1.2年生をふくむ新たな疎開児童がきました。

江戸川区の疎開児童の宿舎 善宝寺

昭和19年8月から3~6年生88名が疎開し宿泊しました。(山形新聞には91名とあります)小松川第三小の6年女子38名と、小松川第四小の3~6年生50名でした。

○宿泊場所は10月までは龍華庵(りゅうげあん)で、11月からは本堂の二階という記録があります。「江戸川区の学童疎開」「ひらい五十年 平井小記念誌」「上越市市民の戦争体験談」「山形新聞」

昭和20年に、6年生が卒業のために帰京しました。昭和20年春に、茨城県の磯浜学園(学寮)から男女合わせて約40名が来て、女子は本堂の二階広間に、男子は龍華庵に入ったと記録があります。「江戸川区の学童疎開」

○湯野浜海水浴場

湯野浜温泉の疎開児童はもちろん、他の地区の児童も湯野浜で海水浴をしました。(鶴岡地区、大山地区、善宝寺)その体験を「海水浴を楽しみ、海から上がると温泉のお湯で砂を落とし温まったものでした」と書いた善宝寺の疎開児童の手記があります。「上越市市民の戦争体験談」「鶴岡の想い出」「学童集団疎開と交流の記録」

江戸川区の学童疎開受入校

昭和20年4月から10月まで大山小学校の教室を使って学習しました。
「学童集団疎開と交流の記録」

○旧大山町の学童疎開

昭和20年4、5月に135の民家や寺院が受け入れ先となり234人の児童が疎開しました。
「大山学校百年の歩み」「学童集団疎開と交流の記録」
戦後もお世話になった恩を忘れないと交流が続き、大山小に「学童疎開報恩碑」が建立されています。

江戸川区の疎開児童の宿舎 大山地区

昭和20年4月から2~6年生234名が疎開しました。
一部は温海や長井から移ってきた児童でした。

○民家(135家庭)に210名 ○正法寺に24名
「江戸川区の学童疎開」「学童集団疎開と交流の記録」

学童疎開を学ぶマップ ～大山・加茂・豊浦・藤島地区～ 令和6年度版・改訂版

国土地理院

○湯野浜・西郷の空襲
昭和20年8月10日、アメリカ軍機の空襲を受け4人が亡くなりました。この時疎開児童の泊まる旅館の一つも被害を受け、西郷小の校舎も攻撃されました。
「湯野浜の歴史」「鶴岡のあゆみ」

○湯野浜温泉の学童疎開
昭和19年8月から1715名、12月末には1748名が疎開しました。
鶴岡ではもっと多くの児童を迎えてお世話をしました。
「江戸川区の学童疎開」

湯野浜温泉

江

善宝寺

江

大山

江

鶴岡

江

湯田川温泉

江

金峰山

江

鶴

江

横山

江

押切

江

常万

江戸川区の疎開児童の宿舎 湯野浜温泉

昭和19年8月から3~6年生824名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。

○湯田川温泉 御殿、鶴見屋、満寿屋、宮五館、旭屋、大三軒、七内たみや、田の湯元、滝ノ湯、穂積屋、大黒屋、五十嵐屋、富士屋石倉屋、司屋、常盤屋の17旅館

「湯田川の歴史集」「江戸川区の学童疎開」

昭和20年2月6年生79名が卒業のために帰京し、2年生をふくむ95名の新たな疎開児童がきました。一部の児童が赤湯温泉に移りました。

「湯田川の歴史集」「ある学童集団疎開記」



○押切・常万に再疎開
昭和20年7月に空襲に備え江戸川区の一部児童が、押切(100人)・常万(46人)に再疎開をしました。
「鶴岡市史 中巻」違う人数を上げる資料もあります。

○藤島・渡前に再疎開
昭和20年7月になると、鶴岡市街にも空襲の危険が迫り、江戸川区の一部児童が、藤島(48人)・渡前(100人)に再疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」「学校沿革誌」には、藤島20余名、渡前120名とあります。

○渡前小で相撲大会
昭和20年7月になると、鶴岡市街にも空襲の危険が迫り、江戸川区の一部児童が、藤島(48人)・渡前(100人)に再疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」「学校沿革誌」には、藤島20余名、渡前120名とあります。

マップの見方

- 江 江戸川区の疎開先
- 江 江戸川区の再疎開先
- 鶴 鶴岡の疎開先
- 関係する場所

○鶴岡市の児童の学童疎開
昭和20年7月、空襲の危険が迫る中で、朝陽三小の児童86人が、旧東郷村へ、四小78人が、旧上郷村へ、五小63人が、旧横山村へ、それぞれ集団疎開しました。
「鶴岡市史 中巻」



江戸川区の学童集団疎開受入校

昭和19年8、9月に375人が疎開すると、学年ごとに朝暁第一～第五小学校に分かれて、提供をうけた一部の教室を使って学習しました。「鶴岡のあゆみ」

やがて、鶴岡にも空襲の危険がせまりました。
鶴岡の児童の集団疎開

朝暁第一から第五小学校の児童も集団疎開することになりました。(昭和20年7月から)

江戸川区の児童の再疎開

市内に疎開した江戸川区の児童の内431人が昭和20年7月に郊外へ再疎開をしました。

- 葛西小 → 渡前村(現 鶴岡市渡前)
- 鹿本小 → 押切村(現 三川町押切)
- 鎌田小 再疎開をしませんでした
- 第三葛西小 → 藤島町(現 鶴岡市藤島)
- 瑞江小 → 本郷村(現 鶴岡市本郷)
- 篠崎小 → 常万村(現 庄内町常万)

マップの見方

- 江戸川区の疎開先
- 江戸川区の再疎開先
- 鶴岡の疎開先
- 関係する場所

江戸川区の疎開児童の宿舎

昭和19年8・9月に3～6年生375名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。

- 鶴岡地区 佐川屋、吉川屋、飯白旅館、村上旅館、鶴岡ホテル
伊勢屋、新穂館、庄内ホテル、奈良屋、渡会旅館、富士屋
恵比寿屋、伊勢屋支店の13旅館「江戸川区の学童疎開」

年度がかわり昭和20年4月には、疎開児童は900人になり(わずかだが1.2年生も加わり)、一部の児童が内陸の南陽市や川西町に移りました。

- 昭和20年4月にはさらに次の旅館や寺院にも宿泊した記録があります。
だんご屋、科皮屋、安清館、松ノ湯の4旅館
禅源寺、長泉寺、般若寺、大昌寺、正覚寺、光明寺、極楽寺、東昌寺の8寺院 「鶴岡のあゆみ」「鶴岡市史」「江戸川区の学童疎開」



江戸川区の疎開児童の宿舎 溫海温泉

昭和19年8月に3~6年生1391名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。
 ○温海温泉 朝日屋、東屋、温海ホテル、新玉屋、泉屋、越後屋、海老屋
 大清水、柏屋、亀屋、壽屋、小松屋、桜屋、待月、瀧の屋、瀧本屋
 竹岡屋、橘屋、鳶屋、鶴住屋、富咲屋、萬国屋、三国屋の23旅館
 他に、角恵比を上げている資料もあります。「温海町史」「学童疎開 謝恩の記念碑の銘文」「江戸川区の学童疎開」
 昭和20年3月6年生が卒業のために帰京し、新たな疎開児童が来ました。

○空腹とのたたかい

昭和20年に入ると食料の食料事情が悪化し米の代わりに大豆やコウリヤンが配給され、旅館は食べ物の確保に努力しました。しかし腹いっぱい食べさせることは難しく、高学年の児童は先生に引率され、山菜とりいも掘り、野菜の取入れの手伝いなどをして食べ物の確保に協力しました。「温海町史」

マップの見方

- 江 江戸川区の疎開先
- 江 江戸川区の再疎開先
- 鶴 鶴岡の疎開先
- 関係する場所



江戸川区の学童疎開受入校

昭和20年4月下旬から10月下旬まで、鼠ヶ関小学校の数教室と職員室を提供したという記録があります。「蓬莱学校の百年」

温海海水浴場

温海温泉



温海岳



温海川



○温海川と温海海水浴場
温海温泉の疎開児童が水泳をしました。

鼠ヶ関海水浴場

鼠ヶ関の疎開児童が海水浴をしてきれいな川(鼠ヶ関川)で塩気を落とし洗顔をしたという手記があります。「山形県温海町学童疎開の想い出」

住吉岬

小岩川

高島

鼠ヶ関小



鼠ヶ関海水浴場

鼠ヶ関

○温海温泉の学童疎開
昭和19年8月から、1391人の多くを迎え入れました。授業はほとんど旅館の座しきでした。元疎開児童たちの感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。「江戸川区の学童疎開」



○温海岳(あつみだけ)
温海温泉の疎開児童が登山したり、マキ拾いをしたりしました。「山形県温海町学童疎開の想い出」

鼠ヶ関の学童疎開

昭和20年4月から、三百数十名の疎開児童を迎えるました。元疎開児童の感謝の記念碑が建てられています。「蓬莱学校の百年」

江戸川区の疎開児童の宿舎 鼠ヶ関地区

昭和20年4月から第二葛西小の1~6年生三百数十名が疎開し、5つの旅館に宿泊しました。

一部は、鶴岡地区から移ってきた児童でした。

○丸イ(水族館)、丸長、牧野屋、港屋、村上屋の5旅館(朝日屋をあげる資料もあります)「温海町史」「蓬莱学校の百年」「江戸川区の学童疎開」「記念碑の銘文」「山形県温海町 学童疎開の想い出」

国土地理院

学童疎開を学ぶマップ ～温海・朝日・櫛引地区～ 令和6年度版・改訂版

鶴岡市の児童の学童疎開

昭和20年7月、空襲の危険が予想される中で、朝陽第一小学校の児童167人が、櫛引地区の旧黒川村と旧山添村に集団疎開しました。「鶴岡市史 中巻」

○鶴岡の児童の分散教育

空襲に備えて昭和20年7月に朝陽一~五小児童の集団疎開が進められた時、鶴岡全体の小学校でも神社、寺院、集会所などに分かれて「分散教育」を行われることが決められ、実施されてきました。鼠ヶ関小学校では、寺院、分教場等で分散授業を実施したという記録があります。「山形新聞」「蓬莱学校の百年」

鶴岡市史 中巻

鶴岡市の児童の学童疎開
昭和20年7月、空襲の危険が予想される中で、朝暁第二小の児童147人が、羽黒地区の旧広瀬村と旧泉村に集団疎開をしました。

山形や鶴岡にはどれくらいの児童が集団疎開したのか
「昭和19年9月文部省調査」によると、山形県全体では江戸川区と江東区豊島区から合わせて14605人の児童が家族とはなれて集団疎開したとされます。しかし「山形大学教育学部90年誌」には約12000人とあり、正確な総人数はわかりません。
鶴岡には江戸川区から約4300人が疎開し、市街地や湯野浜、湯田川、温海、鼠ヶ関などの旅館や善宝寺などの寺院、大山の民家などに宿泊しました。初めは3~6年生が対象でしたが、昭和20年4月には1・2年生も加わり、日本全体で約58万人以上が集団疎開したとされます。
「学童集団疎開の研究」「鶴岡のあゆみ」「昭和19年9月文部省調査」

マップの見方

- 江戸川区の疎開先
- 江戸川区の再疎開先
- 鶴岡の疎開先
- 関係する場所

○羽黒の宿坊
「大相撲(おおずもう)の力士の疎開」
昭和20年、横綱羽黒山をはじめとする立浪部屋の力士たちが羽黒の宿坊に疎開をして、飛行機の燃料となる松根油採りの作業に当りました。
力士の家族も合わせて30人ほどが来たそうです。「横綱羽黒山と松根油」「羽黒町史」「大東学校百年のあゆみ」

横綱 羽黒山

○広瀬小学校
都会からの縁故(えんご)疎開児童に、終戦直前には鶴岡からも疎開して来て、机、椅子が足りず、三人掛したり、教室の後ろまでびっしり机が並び、掃除も満足に出来ないようなりさまといいう記録があります。「百年のあゆみ 羽三小」

○羽黒小学校(当時 泉小学校)
二年生の女子、四十何名のクラスが終戦前何ヶ月間は、集団疎開のため八十名になって、先生が机の間を回って教えることも難しくなったという記録があります。
「百年のあゆみ 羽二小」

○羽黒山登山
昭和19年9月、鹿本小学校の6年生が羽黒山に一泊旅行をしました。
鶴岡地区の旅館から歩いて羽黒山の石段を登り、五重の塔を見て、斎館(さいかん)に泊まりました。鶴岡と庄内平野の眺めがよかったです。「鶴岡の想い出」
昭和20年には、善宝寺に宿泊する疎開児童も全員で羽黒山遠足をしたという記録があります。
「江戸川区の学童疎開」

○今野部落集会場(当時 泉村)
「昭和20年7月 朝暁二小の児童二十数名受け入れ」
児童と先生が終日生活を共にしたという記録があります。
「百年のあゆみ 羽二小」

**国土地理院
学童疎開を学ぶマップ
～羽黒地区～
令和6年度版・改訂版**

江戸川区の児童の再疎開先の宿舎
「鶴岡市史 中巻」

昭和19年7月、鶴岡にも空襲の危険がせまり再疎開をすることになりました。

葛西小100人→渡前村 渡前小・東蓮寺・徳正寺・六所神社
鹿本小100人→押切村 耕福寺
鎌田小141人→再疎開せず 地区本部・新穂寮・村上寮
第三葛西小48人→藤島町 大洞寺
瑞江小137人→本郷村 本郷館・落合ホテル・渡部つた子(橋本屋)・瑞竜院
篠崎小46人→常万村 常万小学校特別教室